

○第1回長門市部活動改革推進協議会 会議録（概要版）

日時：令和5年1月19日 午後6時30分～午後8時

場所：長門市物産観光センター2階会議室

出席者：協議会委員16名、事務局8名

■市長あいさつ

本日は、お集まりいただきありがとうございます。

第1回長門市部活動改革推進協議会の開催に先立ち、ひとことご挨拶申し上げます。

現在、全国的に議論が始まっております中学校部活動の地域移行について、いよいよ長門市でも本格的に議論を開始すべく、本協議会が開催されることとなりました。

私も、市長と協働のまちづくりミーティングにおいて、子育て世代からの声を聴く中で、中学校部活動のことに関する意見や不安な思いを直接聴いてまいりました。その内容は、「活動種目が選べないこと」や「人数が少なく充実した活動ができない」など、少子化に伴い生じている問題への切実な思いが込められておりました。

この問題は、長門市だけのものではなく、日本全国で生じているものであります。長門市ではこの機会をチャンスと捉え、中学生のスポーツや文化活動の持続可能な環境づくりを改めて構築したいと考えております。これは「部活動改革」を始まりとする大きな「教育改革」にもなっているところです。また、教育のみならず、これに関わる一般市民のスポーツ・文化活動の活性化にもつなげていくため地域全体で取り組んでいきたいと考えています。

この「部活動改革」は、多くの人々に影響を与える、非常に大きな事業であり、これから協議を進めていく中で、様々な問題や検討事項が発生することが予想されますが、委員の皆様には、未来ある長門市の子供たちのために、より良い活動環境づくりに向けてご協力いただければ幸いです。

以上、簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。

■会長あいさつ

お忙しい中、ご参集いただきましたことに対しまして、お礼申し上げます。

少し長くなるのですが、これまでの経緯も含めてお話をさせていただきます。

これまで、中学校における部活動は、学校教育の一環として行われ、教師の献身的な支えにより成り立ってまいりました。体力や技術の向上を図るということ以外にも、生徒同士や、生徒と教師との好ましい人間関係の構築、自己肯定感・責任感・連帯感の涵養などの教育意義を有しております。

しかしながら、少子化による生徒数の減少や学校の働き方改革の面など、今までのような学校単位での部活動の運営が困難になってきていることから、令和4年12月、国によって「学校部活動及び地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」が策定され、部活動の地域移行の方向性がしめされたところでございます。本市におきましては、平成30年に市PTA連合会により、部活動に関するアンケート調査が行われ、その中で、「部活動数の減少により生徒の希望す

る部活がない。」という切実な声が多くありました。」これを受けて市教委学校教育課に事務局を置く「長門市部活動研究会」を設置し、委員のみなさんと部活動の学校現場の視察や意見聴取に取り組み、合同部活動の可能性などについて協議を行ってまいりました。しかしながら、「合同で部活動をする場合の移動手段」、「外部指導者の不足」といった大きな課題が立ちはだかり、生徒の声に応えることができなかつたという経緯がございます。この課題は、地域移行をめざす現在でも、共通の課題になろうかと思ひます。

本協議会では、これまでの本市の取組を踏まえた上で、学校と地域との連携・協働により、生徒や保護者の負担に配慮しながら、部活動の在り方にたいして抜本的な改革に取り組み、持続可能な活動環境を整備していくとともに、将来的には、地域住民にとつてもより良い地域スポーツ・文化芸術環境となることも目指してまいりたいというふうに決意しております。山積みする課題の解決に向けてご示唆をいただきますようお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお祈ひします。

副会長あいさつ

皆さんこんばんは。私はスポーツ協会会長ということでこの場に立たせていただいております。まず地域住民を含めて、私達スポーツ関係者から学校の先生方に、これまでの土日も絶えず、平日ともに子供たちのスポーツ及び文化の面で支えていただきましたことを深く感謝申し上げます。

長門市の現状は、少子化により各学校で十分な部活ができないということ存じ上げております。皆様と一緒に良い考え方も示して、子供たちがいろいろなスポーツができるように、力を皆さんから与えていただけて、一人の人間としてお手伝い出来たらという気持ちで本日参りました。

皆様と一緒に新しい長門市の子供たちのためのシステム作りができたらと思ひます。よろしくお祈ひいたします。

議題

(1)「長門市の部活動の現状について」

■事務局より説明

部活動地域移行に向けた国の動向についての説明。

令和2年9月、スポーツ庁から学校の働き方改革についてとしてその概要が示された。

令和4年6月、および8月に運動部活動、文化部活動、の地域移行に関する検討会議の提言。

令和4年12月には学校部活動及び新たな地域クラブ活動のあり方等に関する総合的なガイドラインが取りまとめられ発表。

将来にわたり生徒がスポーツ・文化活動を継続して親しむことができる機会の確保を目指すこと。競技志向の活動だけでなく生徒の多様なニーズに合った活動機会を充実させ、体験格差を解消することとしており、現在行われている部活動指導を地域や民間の団体に委ねるとされています。

令和4年の6月、8月に示されました提言では、令和5年度から令和7年までの3年間を改革集中期間として令和7年度末を目途に、まずは休日の部活動から段階的に地域移行を図る。と、しておりましたが、この3年間で移行に向けた環境整備することが難しいという各自治体の意見も多くあり、この12月のガイドラインでは、地域の実情に応じて可能な限り早期の実現を目指す。という内容に修正をされております。

【これまでの市教育委員会の動きについての説明】

教育委員会といたしましては、今年度、6月から7月に市内の関係者を交えた、協議を8月から10月に学校関係者やPTA関係者、現役の保護者を交えた意見交換会を開催し、部活動の現状や課題、移行の仕方等、本市にふさわしい地域移行のあり方について、幅広く意見交換を行ってまいりました。さらに、11月に、市内の全中学校に出向きまして、管理職や教員に対して、地域移行に向けた説明会を実施しております。加えまして、昨年7月に現中学校1・2年生と中学校全教職員を対象に、部活動の地域移行に関するアンケートを実施し、実態把握に努めているところでございます。

【資料1の説明】

本市の中学校生徒数の推移を示しておりますが、昨年、令和4年12月31日現在711人の生徒数が10年後の令和14年には500人を下回る見通しであり、今後、生徒数の減少が加速化する現状が推測されることから、将来にわたって子供たちがスポーツ・文化活動に継続して取り組む機会の確保はこれまで以上に困難になると考えています。

生徒数減に伴う設置部活動数の減少によって、必ずしも生徒が希望する部活動を選択できていない状況があり、望まない部活動に入部している生徒がいる現状があります。

各学校では活動への所属は任意としていることから、無所属の生徒約5%。それから学校外の方クラブチームに所属して活動する生徒、約7%と一定数おります。

団体競技において、部員数不足により学校単独でチームを編成することができない部においては、近隣の学校との合同チームとして活動しているケースも複数存在しております。

□現状の問題点

1. 活動種目の選択肢が少ない
2. 団体競技の部員数が足りず、他校との合同チームで活動せざるをえない種目があったこと
3. 少ない部員数での活動により、練習内容が限られ、効果的な練習が展開しにくいということ。
4. 担当する部の競技経験や活動経験のない教員が顧問を務めることもある。技術指導の困難さや活動運営の精神的な負担感が生じているということ。
5. 休日を含めた活動指導が求められるなど、担当する教員にとって大きな業務負担となっている。

昨年7月に、現中学校1・2年生と中学校全教職員を対象となりました部活と地域移行に関するアンケートの結果につきまして、様々なご意見をまとめております。地域移行に対して不安なことや課題等を多くのご意見をいただきましたが、生徒対象のアンケートでは85%の生徒が、「部活動が地域移行された場合でも、いずれかの地域スポーツ・文化活動に参加

したい。」と答えておりました、多くの生徒が部活動地域移行に対して前向きな姿勢や期待感を持っていることがわかりました。このたび全国的に推進する部活動改革を長門市にとっては、大きなチャンスというふうにとらえて、今後協議を進めながら、ふさわしい地域移行の形を模索していきたいというふうと考えております。

■委員（意見なし）掲載

（２）「長門市部活動改革の方針について」

■事務局より説明

資料２の説明

本市では少子化の影響を受けて、生徒数の減少が続き、すでに学校単位の活動の存続は困難という状況になっています。これは本市に限らず全国的な問題となっています。この機会をチャンスと捉えて、選択できる種目を確保して持続的に活動できるような体制を作ってまいりたいと思います。

□長門市の中学校部活動地域移行の方向性（案）

参加を希望する市内中学生が、平日休日ともに、複数の選択肢の中から活動種目を自ら選んで、まとめてスポーツ・文化活動を行う。

現在国が進めようとしているのは休日の部活動地域移行ということですが、本市における根本的な問題というのは活動種目の選択肢が少ない、人数に対する問題が挙げられる。解決に向けて、平日休日を同時に、地域移行ということで進めていきたい。

1. 仮称「ながと中学生スポーツ・文化クラブ」の設立
2. 平日週２・３日、休日の１日、程度の活動を行っていく。（平日は放課後）
3. 指導者の確保。複数人確保して、グループで指導や見守りにあたる。
4. 自発的な参画を通して、自己表現、体力向上、責任感と協調性、これを育み、将来にわたってスポーツや文化活動の楽しさを感じられる人材育成を目的とする。試合、大会での勝利や技術向上のみを目的としない。

今後の活動種目に関するニーズ調査。

現在一番部活動の種類が多い深川中学校で展開されている種目を例として提示。

種目においては、今後協議していく。

□地域移行することによってのメリット

1. 自分で種目を選び、意志をもって活動することでの質の向上。
2. 専門的な知識や経験を持った指導者からの指導が受けられる。
3. 学校外の生徒、大人との交流によって、人格形成、コミュニケーション能力の向上。
4. 活動日が減少することで、成長期の身体的な負担の軽減、余暇を使って他の活動も可能
5. 教員の負担軽減、働き方改革の実現

□懸案事項について

1. 活動場所の選定及び移動手段

2. 人材確保（適切な指導、安全面の管理、心身の健康管理）
3. 保護者負担
4. クラブと学校との情報共有

□各学校単位でスポーツ・レクリエーション、文化活動ができるクラブの設置

本気で何かの種目を選んで移動してまでやりたくないが、何らかの活動がしたいというニーズの生徒を対象。

平日2、3日の活動。

地域の公民館等に協力いただいて、コミュニティスクール、地域連携（人材派遣）を行う。

例）ニュースポーツ・レクリエーション・ボランティア活動、デジタル活動等。

現在までのアンケート結果を検証。これまでの要望、ご意見を踏まえて、これから先の本市のベストな形が何かということで、現状の問題点を解決する方法を検討したもの。それぞれ所属にお持ち帰りいただき、検討や共有いただき、次回の協議会などで、意見交換を行いたい。

■委員

この制度に移行した場合、学校では部活は行わない。地域でのスポーツ・文化体制で行う。ということでいいですか。

■事務局

学校ごとで種目を選択するというものはなくなるということをイメージしております。

今現在の方向としては、学校単位での部活という形は、ないということです。

ただ、今後の協議によりますが、最後にお示ししたスポーツ・レクリエーション、文化活動については、各学校単位でというところ。ここは部活動とは違いますが、各学校において運営を担っていただく必要があると思っています。

■委員

少子化により部活動を選べない。あるいは、チームとして成り立たない。これは以前から議論されて協議されてきたと思います。今回、国が地域移行というのを切り出した一番は教員の働き方改革ですよね。それで、動きだしたということですよ。

国がここまで動きだしたっていう背景は、やはり働き方改革の一連の動きの中で出てきて、課題として長門市では以前からずっと問題があったということで、両方考えなければならない。という認識でいいのかなということの確認でした。

■事務局

国の考え方ですが、日本全国というところで、小さな市町とは違うスケールで物事考えられている。本市の問題では種目が選べない。人が少ないというところがありますが、都会では、そういった問題はまだ発生していない。学校教員の働き方改革、これも一つの軸、そこが発生源ということもあります。しかし少子化というのは日本全国で起こっているということで、一番の問題なのかなと思います。また学校教員の負担もいつまでも減らないということで、改革しなければならないという運びになったと、認識しております。

■委員

仮称「ながと中学生スポーツ・文化クラブ」ですが、イメージとしたら、一つということですか。何年かかるかわからないですけれども、10年後の具体的なイメージを持って協議していかないといけない。軸がずれ、目の前の問題点に振り回されるような感じがするので、10年後にどうなっているかという理想のイメージを皆さんで共有しないといけない。軸がずれてくるのではないのかという感じがする。そういう意味で、参加体制を具体化し、イメージを持っておかないといけないと思いました。

■事務局

まとまってということところが一つなのか、それとも二つなのかっていうところ。今後、この協議会で議論していくテーマの一つであると思っております。活動場所が、複数あればそこに当然指導者、用具等の問題がでてきます。今後の協議になりますが、どういったことが、将来的に持続可能なのか、またいろんな複合的な部分を考えながら、個人競技なのか、団体競技なのか。色々な考え方があろうかと思えます。この内容については、拙速に決めずに、色々な議論を尽くしてもらえるのが良いと思っております。

■会長

10年後の生徒数は激減するわけです。しかしながら、現在は約700名います。そこを計画的に見据えていかななくてはならないと思えます。今動かないと、もう間に合わないと思えます。

■委員

細かいことを言えばかなり問題は山積しているし、小さいことばかり言うと進まないの、今日は、大きいことの確認だけでよいのかなと。課題はたくさんあるということだけは思えます。持ち帰っていろいろ順序よくやっていけたらと思えます。

(3)「今後のスケジュールについて」

■事務局より説明

資料3の説明

令和5年度から7年度が、国が示す改革推進期間。本市は、令和7年度からの地域移行を目標設定したい。可能であれば令和6年度中に、何か一部の試行を、検討したい。

併せてしっかりと周知をしていきたい。

ニーズ調査、意見交換会を継続し、推進計画を策定したい。

令和6年度組織体制の策定予定。部分的な実証実験を実施したい。

令和7年度で全体の地域移行を目標として設定したい。

想定される山積みの課題、懸案事項を一つ一つ解決していく。

そして、本市の未来を担う子供たちの健やかな成長のため、スポーツ・文化活動を持続的に親しめる環境を目指していく。

■会長

「改革集中期間としての3年間」という位置づけから、「できるだけ可能な限り早く」といったトーンダウンを国のほうが自治体の要求を経て行われたということではありますが、本

市としては、当初の計画、これをチャレンジしていこうというふうな決意であります。このことについてはいかがでしょうか。よろしいですか。

課題山積です。本当に大変だということは皆で共有したと思います。

これから第2回、様々な具体に迫る部分が出てこようかと思いますが、ぜひ、貴重なご意見等をお寄せいただけたらと思います。

■部長

委員の皆様、ご協議大変ありがとうございました。委員の皆様におかれましては、この大きな改革に今後ともご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

それでは第1回長門市部活動改革推進協議会を終了いたします。